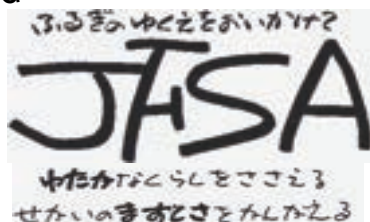


衣のNGO



NPO法人 日本ファイバーリサイクル連帯協議会

千葉市中央区都町3-14-10

TEL/FAX 043-234-1206

E-mail jfsa@f3.dion.ne.jp

URL <https://jfsa.jpn.org>

会報 59号 2022年9月



【写真】

身の回り品を担いで村から避難する人々。村人は周辺の水位の上昇で、村に閉じ込められるのではないかと心配し、家族や家畜とともに少しでも安全な場所へ移動しようとしている。撮影当時約1.5mだった水位は、一週間後に再び訪問すると3mにまで上昇していた。

* 場所：パキスタンの大洪水で被災したシンド州内陸部の農村地域モロ

ー 本文2～4ページ

アル・カイルアカデミー近況報告① ～洪水被災地支援活動～ 関連写真

◆◇JFSA ホームページ

Facebook ページもごらんください◆◇



JFSA HP



JFSA facebook

アル・カイルアカデミー近況報告① 〈洪水被災地支援活動〉

海外事業担当事務局 依知川 守

パキスタンでは8月下旬に起きた大洪水により、国土の3分の1が冠水し、犠牲者は約1400名、推定では3300万人の人々が被災していると報じられています。この大洪水に対して、アル・カイルアカデミーは現地で寄付金を募り、被災地支援を開始しています。被災地の状況や支援活動の内容についてムザヒル校長に聞きました。

Q (依知川)・・・6月頃から始まったモンスーン(雨季)では、カラチ市内の主要な箇所でも冠水している様子がニュースで報じられました。また9月に入り、大洪水のニュースを見た会員の方からは「アル・カイルアカデミーの子どもたちは無事ですか?」という心配の連絡をいただいています。

A (ムザヒル校長)・・・今年も大雨で、カラチ市内の特にスラム地域は影響を受けました。冠水により交通機関が麻痺し、教師は歩いて学校に行かねばなりません。生活に影響を受けた生徒やスタッフの家族には食料の支援をおこないました。現在では水は引いています。

また、水害とは別に、ルピー安や燃料費の高騰が重なり、食料も含め物価が非常に上がっていることが問題です。

Q 今回は2010年の大洪水とどのように違うのですか?

A 今年は北方からの雪解け水に加え、モンスーンの時期に各地の降雨量が記録的に多く、それらが合わり川を氾濫させ、より大きな被害をもたらしているのです。

(ネットの気象情報では、シンド州のモンヘンジョダロの例年8月の月間雨量が35ミリ、年間でも100ミリなのに対して、今年は8月29日までに780ミリも降ったそうです。)

Q アル・カイルは今回の大洪水の被災地でどのような支援活動をしているのですか?

A 今回の大洪水はパキスタンの各州で被害をもたらしており、カラチ市のあるシンド州の内陸部では甚大な被害が出ています。特に、州北部のサツカルやラルカーナという都市は被害の様子がニュースで大きく報じられ、大きなNGOが大規模な支援活動を行なっています。

私たちは、2010年の大洪水の際に支援したダドゥという都市を起点に、周辺のジョイ、モロ、ディグリー、シター、バリーシャなどの被災地を8月末からこれまで3回訪問しています。被災地では被災者からの聞き取り調査を行なうと共に、緊急支援として食料(700

A 当面は緊急支援として、特に食料と安全な水が必要です。また被災地では蚊が大量に発生しており、マラリアやデング熱などの感染症の広がりへの対策として、蚊帳や蚊取り線香などを届ける必要があります。

現在アル・カイルは医師に呼びかけ、ボランティアチームを編成しています。近々彼らと共に現地での医療支援活動を行なう予定です。

数ヶ月後に水が引いてからは、被災者である農民の暮らしを継続して支える必要があります。今回の大洪水により、農民たちは家だけでなく、作物を育てる土地や家畜など全てを失いました。彼らの生活の基盤を再建しなければなりません。

実は2010年の大洪水の際に農民の家を建て直す支援を行なったのですが、先日再び彼らの家を訪問したら、建て直した15棟(1軒につき2世帯、合計30世帯が暮らす)は全て無事だったのです。家をしっかりと建てたことと、堤防によって水の侵入を防げたことが要因でしょう(写真左下)。

私たちはカラチ市という大都市で暮らしていますが、都市部の人々の暮らしは今回の被災地のような地域で作られる農作物により支えられているのです。私たちは農民が居なければローティー(主食の平焼きパン)1枚すら食べられないこ

とを自覚しなければなりません。その意味でも農民の暮らしに関心を持ち、支援することはとても大切です。

Q 2010年の大洪水の際には、アル・カイルの生徒たちも支援活動に参加しました。今回はどのような形で支援活動を行なっているのですか?

A 今回の被災地支援活動には、私たちの学校の教師やスタッフ、卒業生などがボランティアで参加しています。また先日3回目の被災地訪問では上級生の男子生徒が4名参加しました。その日は暑かったのですが、生徒達はとても熱心に作業を行ないました。彼らは被災地の想像を超えた光景に驚いていましたが、今後も自分たちに出来る事があれば是非参加したいと話しています。

2010年の大洪水で生徒たちが支援活動を行なったことは、私たちにとってはとても重要な体験でした。生徒たちは、この活動へ参加することを通して大切な事を学んでいると感じます。

また現地を直接訪問するだけではなく、食料配布のための袋詰め作業には多くの生徒が参加しています。更に生徒たちはカラチ市のゴミ捨て場カチラクンディにある分校も含め、全校で約7万ルピー(約4万2500円)の寄付金を集めてくれました。

家族分や蚊帳(500個)、テント(50張)などを配布しました。特にインドとの国境に近い方面には非ムスリム(パキスタンでは少数派であるヒンドゥー教徒などイスラム教徒以外の人々)が多く住んでおり、そのような地域には支援が届いていない状況があります。私たちはそのような地域でも積極的に支援活動をしたいと考えています。

Q このような支援活動で大切な事は何でしょうか?

A 被災者の人々にしっかりと支援が届く事です。2010年の大洪水では、被災地の人々と関わる際、ダドゥに住む私の親友ガファル医師が協力してくれました。彼は残念ながら今年亡くなっていますが、今回は彼の親戚のサジド氏を含む地元の数名が協力してくれ、被災地ごとにデータ収集など必要な作業を進めています。

Q パキスタン政府は被災地の水が引くまでに数ヶ月から半年はかかるだろうと考えているようです。また不衛生な水によりコレラの蔓延も心配だと報じられています。今後はどのような支援が必要なのでしょうか?

生徒たちからは、被災地の学校が再開される時には、自分たちの手で現地の子どもたちに教材を寄付したいという声も上がっています。学校としても、現地の子どもたちの置かれている状況を調査し、長期的には教育支援も視野に入れたと考えています。

Q このような大災害によってアル・カイルアカデミーが受ける影響はありますか?

A このような大災害では被災地支援に寄付金が集まる一方で、その他の活動への関心が下がることが考えられます。このような事態でも、学校の活動を継続して支援してもらうため、協力者の人々に連絡し、支援を呼びかけています。



2010年の洪水の際に復興支援で再建した家
堤防により今回の洪水では水の浸入を防げた



被災地支援へ向かう車内
学校スタッフと、上級生の男の子たち(右後ろ4名)



地元の小地主マクブール氏(左から2人目)と
学校スタッフ



水没して水が引かない集落の周りの畑